

# 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

## 第 360 回 内向化する若者たち

2010.4.18

『内向化する若者たち』(『トレンド・キャッチ!』Vol.248・<http://homepage2.nifty.com/INandOUT/nw/2000/003.html>) というコラムを読んだ。

～若者の求めるものが、変わってきている。ついこの前までのそれとは、正反対と言ってもいいくらいだ。その特徴は「内向化」。これまで若者の特徴とも思われてきた外向性が、今は「外→内」「大→小」へと変化しているのだ。海外ブランドより国内ブランド。海外旅行より国内温泉旅行。ノートパソコンより携帯メール端末。車よりバイクやキックボード。カラオケボックスより自分の部屋。パーティより1対1。長引く不況を反映してか、よりシンプルに、より手軽にとスケールダウンしているようにも見える。～

若者層のマーケティング調査機関である「M1・F1 総研」は、首都圏在住の若者の消費行動に関する調査「若者がモノを買わない要因の考察と消費を促す方法論」を発表した。レポートによれば、若者がモノを買わない要因として5つ、あるという。「将来に対する不安 将来に不安を抱いている」から貯蓄志向が高い。「低い上昇志向 上昇志向を持たない」ゆえ、いいモノを欲しいという欲求が低い。「固定化された人間関係 交友関係の開拓意欲が低い」から、他人に触発されてモノを買う経験が少ない。「漠然とした結婚意識 結婚想定時期が遠い」ので、今やりたいことをやっておきたい意識が低い。そして、「インターネット利用時間が長い」ので、情報が多すぎて調べるのが面倒になり、購入を中止した経験が多い。したがって消費力は低い。インターネット利用時間が長い若者独身者は、ネットで調べている間に、何を買ってよいかわからなくなった経験が多い。したがって消費力は総じて低い傾向になるようである。

日経流通新聞は2007年、20代の若者は貯蓄に熱心で酒や車への関心は薄く、「堅実・小規模な」暮らしを好んでいる、とする意識調査の結果を報じた。休日に家にいる若者も多く「巣ごもる20代」と大きく見出しをつけた。若者たちは、地味な生活を好み、堅実になったという。同新聞記事によると、月々に自由に使えるお金の使い道として、20代の36.0%が「貯蓄」を挙げ(複数回答)、2000年調査より8.2ポイントも増えた。また、乗用車保有率は13.0%で00年調査比10.6ポイントも減った。「欲しい」と答えた20代も25.3%(同22.9ポイント減)と半減に近い数値を示した。「駐車場代やガソリン代がかかる」「高すぎる」などが理由という。さらに、飲酒について、お酒を全く飲まないか、月に1回以下しか飲まない20代も34.4%を占めた。「月に2、3回くらい飲む」派を加えると、お酒に縁が薄い20代は、60%に迫る「多数派」となる。ノコミュニケーション(居酒屋の青春)は、もはやない。

内向化が益々進む現代の若者達、酒を飲まない、車を買わない、休日は「家にいる」、そして彼らの一番の関心事は貯金...保守的で慎(つつ)ましい、これが20代の若者の特徴だという。

今話題の「坂本龍馬」、高邁な志を得、土佐藩を脱藩したのが26歳の時、あの頃の熱き若者の姿は、今はない。情熱があればなんとやら...という時代でもないかもしれないが、幼稚園ですでにやる気がないお子さんがチラホラいる時代。「若いうちは失敗を恐れず、挑戦しろ...」なんて文言も死語となった。三無主義(無気力、無関心、無責任)自己中心主義、指示待ち人間、嫌な仕事はしない、仲間意識が強い(つまり、自立できない)と言われっ放しで、随分時がたった。

怒れ!若者、向かって来い!! 将来の日本を、どうするつもりか。「立ち上がれ!日本」ではないが、石原慎太郎の怒鳴り声が聞こえてきそうである。

## (参考)

### 「立ち上がれ！日本」ネットワークは、こう考え、呼びかけます

#### 日本は、これでいいのだろうか？

日本人拉致、領土や海洋権益への侵害、靖国神社参拝や歴史教科書への不当な干渉等々、いま日本は近隣諸国による露骨な脅威と侮りとも言える対外問題に直面しています。しかし、わが国はいまだに有効な対抗策をとれないばかりか、正当な反論すらできていないのが現状です。

一方、国内に目を向ければ、反日歴史観とジェンダーフリー思想の蔓延、人権イデオロギーの浸透によって教育の荒廃、家庭崩壊の流れが勢いを増しています。このままでは、日本の国そのものが内部崩壊を起こしかねない事態です。

そればかりか、拉致問題を矮小化、相対化したり、教科書問題などの国内問題を外国の圧力を呼び込んでねじ曲げようとする反日勢力が横行しているのも現実です。

#### 新しい「保守」が必要です

こうした内外の問題を直視し、反日勢力に対抗して、日本の建て直しを図る勢力はどこにいますでしょうか。

かつて、戦後のわが国において、共産主義革命の危機から日本を守り、国の独立・安全と文化・伝統を守る戦いを支えたのは吉田、岸といった政治家に率いられた「保守」陣営の人々でした。しかし、現在、「保守」と言えば、長期政権のもとで、もっぱら利益や権力を求める人々が単純に「保守」とみなされているのが現状ではないでしょうか。つまり、保守とは何かという思想的自己確認を怠った結果、保守層全体が脆弱化し、反日勢力との戦いにも遅れをとってしまっているのです。

私たちは、いま、こうした「戦後保守」と訣別し、本当の意味での「保守」を確立すべきときを迎えているのではないのでしょうか。

#### 草の根ネットワークを作ろう

もちろん、こうした現実を直視して、拉致問題の解決をめざす幅広い運動や、教育・教科書問題の正常化を求める運動、さらにはジェンダーフリー思想などの浸透をくい止める動きなどが各地で起こっています。これに限らず、心ある人たちが各地で国政を監視し、その問題点を指摘する声をあげつつあります。

本当の保守とは、わが国の歴史・伝統・文化を愛し尊重することはもちろん、勤勉を旨とし、家族を愛し、地域をもっと良くしたいと考え、なによりわが国の可能性と未来を信じる人たちだと思います。

現状に対する問題意識とともに、こうした基本となる「保守」の考え方を共有する人たちが、まずは草の根のネットワークをつくり、日本の再生に向けた第一歩を踏み出すべきだと私たちは呼びかけます。